

令和5年度 評価結果公開シート

金塚幼稚園の教育目標

心身共に たくましく 気力のある子ども

健康に留意し、たくましい気力を養うと共に、常に注意深く物事を察知できるようになる

友達と親しく、又異年齢の子どもをいたわり、思いやるこころを持つ
自然に興味を持ち、生き物を愛護し情緒の豊かな感性を表現できる
人に頼らず、自分で何事も進んでやろうとする気持ちを持てる

今後重点的に取り組むべき評価項目

教員の能力・資質の向上と専門リーダーの育成

教育・保育の質の向上と充実 教職員同士の連携

子育て支援、家庭支援の再構築

療育支援事業の充実と推進

Web を駆使した情報の発信

地域性に基づく交流と子育て連携の再確認

専門分野の知識力の向上と積極的な研修参加

危機管理意識と健康安全確保の為に体制作り

保護者理解と連携

食育に関する取り組み

学校安全と人的外部危機の観点からの園児保守

園児と保護者・教職員の常の健康維持と体調管理

個人情報の徹底管理と保全

地域ネットワークを生かした、公共機関・自治体・医療機関との連携

就業規則以下、教職員構成の再構築

感染症の防止対策の徹底と見直し

子どもたちに負担の無い預かり保育の見直し

園外活動の見直し

苦情解決の組織的な連携体制の保持

評価項目の取り組み状況

“認定こども園 指導要領”に沿って、就学までに育ってほしい子どもの姿を捉えて保育を推進している。

教職員は専門知識を高めるためにも園内外の研修や公開保育に積極的に参加し、研修で得た知識と内容を全教職員と共有し、全体で認識を高め、又 次につなげる努力と教育的指導内容を深める努力をしている

特別支援の子どもたちの教育を推進し、保護者との共通理解を通して積極的に支援している

個別指導計画を作成し、子どもの成長に合わせた計画をたてる

園の教育育理念と方針について年度初めに話し合いの場を持ち、共通理解と1年間の指導計画と目的の認識を深めている

毎月の園だよりを(学年だより)をはじめとした情報発信を積極的に行い、必要に応じて個別懇談や教育相談の場を設け 親子・教師共に集団の学びの場として協力と支援の意識を高めている

預かり保育を充実させ、家庭の事情も踏まえて至急の要望にも柔軟に対応できるように体制を整えている。

危機管理マニュアルを作成し事故・震災等の場合に備えて食糧・飲料水3か月分の備蓄をしている

常日頃より教員個々の危機管理意識を高めて緊急時の迅速な対応を心がけるようにしている

あらゆる緊急時を想定して、日頃の点検や訓練を充実させており、消防訓練などは、保護者参加を推奨している。

防犯に努め、あらゆる危機に備えて職員間で話し合い、警察にも協力を要請して防犯訓練を行う。

給食での誤飲、誤食、午睡時のうつぶせ寝など諸事面での危機管理マニュアルを作成し、毎日の記録を欠かさず行い、乳幼児の事故を防ぐように職員間の連携を構築している

食育面で未発達な乳児については、保護者とも相談しながら、慎重に離乳食を選び進めていけるように取り組んでいる。給食業者にも子どもたちの発達段階を事細かに伝え、対応してもらうように申し入れている。

園庭解放は感染症対策を徹底して再開の予定である。子育て支援施設として、広く地域の親子とのコミュニケーションを図るようにしている

園児や保育従事者共に体調管理に努め、園庭を利用して出来る最大限の体力づくりを心掛けている。

各家庭の環境に寄り添って、子どもの成長を助長できているか。

子どもの安全が確保できているかが確認できる態勢を持つ。

個別に懇談を行い、ケアの必要な家庭には助言できるようにする。
子育て支援の位置づけから、それらを教職員が理解し、職員体制などの構築を行っている【就業規則】
保護者支援の立場から、家庭での環境も出来る限り把握する中で、支援の必要な子どもやその可能性を見出した場合には、支援活動を開始する

重点項目の自己評価

- ・新任教員は、経験者と共に動き経験を深める一方で、保育方法や得意面を活かす取り組みを現在模索しているようである。
- ・複数の教員と連携して物事を進める中で、個々の意図や段階をスムーズに読み取り、実践する努力をしていくことが課題である。
個々の資質や能力が存分に発揮できるシステムや、連携がなおさら必要であり、忌憚なく意見が言える雰囲気と関係性を構築していくこと
- ・特に新しい取り組みを行う際には、十分な下調べと話し合い、役割分担をはっきりさせておくべきである
- ・先輩教諭は後輩教諭の指導に努め、専門知識の技術・指導力の向上と共に、教諭間のチームワーク作りを心がける。
- ・教職員が課題や問題点等を共有し、保育に臨めるようにすること
又教職員同志の信頼関係の構築により一層努める。
新しい試みには二の足を踏まず、まずやってみようとする志が肝要。
- ・保護者との連携や共通理解を常に見直しながら、園児の成長を見守る。
- ・突発的事故等に対する危機を察知する危機管理能力の向上・冷静な対応とチームワークが必至。
- ・その場に有った環境構成や創意工夫を固定観念にとらわれて構成していないか、又新しい企画や試みを積極的に取り入れる柔軟な姿勢を持ち、それらに対する第三者の助言や意見を発信しやすい関係作りの構築
- ・情報の発信・受信力を高め、情報を共有し 不透明な環境や状況が発生しないように心掛ける。新しい情報が皆にすぐ行き渡るネットワークも必要
教職員の共有情報に誤認が無いように心がける
[通信手段は慎重に情報漏洩の無いように注意すること]
- ・あらゆる方面の専門知識と経験を積み、常に向上心を忘れず子どもの育ちに寄り添う。他園の公開保育やマネジメント研修にも参加する。
積極的な研修参加により保育の空白がおきないように、保育教諭の連携とフリー教諭のアシストを常に構築して置けるようにする
- ・本園の教育目標から見てくる子どもの育ての見通しを、教員全体で把握し、反省や改善点などを積極的に話し合う時間を積極的に持つ

- ・全園児の健康状態や発達段階・抱える問題点など、すべての教員が把握して、適切な指導が出来ているか、又見直しが無いかな等の情報を共有し、教育推進に努める。
- ・日頃の取り組みや保育の見直し、保護者との関わりの中で、見落としが無いかな、反省すべき点が何か、広い視野で物事を見つめる心と環境を整える
それぞれの年齢に適したカリキュラムの見直しが必要であり、振り返りや評価も必要
課題は繰り返し復唱し、反省が生かされるように心がける
- ・預かり保育を希望する家庭が増える中で、預かり保育の環境を見直し、職員体制を改めて整える
- ・乳児に対する知識を積極的に得て、子育て相談の場として機能が働いているかを考察する
- ・要支援児の受け入れについて、間口を広く保護者や園児に寄り添って共に育つ人的・物的環境を構築する。
保護者とのヒアリングを密に重ねるべき
- ・食の観点から、誤飲や誤食に、より一層注意することが肝要である
特に乳児のアレルギー対応は2重3重にチェックが必要である。
- ・子育て支援の立場から保護者と向き。合い、子どもの成長を援助していく体制を考察する
- ・教諭・保育士の医療行為についての最新の知識を持ち、いかなる状況にいても全職員が冷静に対応出来る体制と心構えを持つ
- ・外部関係者や保護者からの要望について、早期解決が困難な場合は冷静に受け止め、解決できる体制を整える
- ・感染症について、新しく正しい知識を得ながら冷静に対応できる体制と、連携を構築する

学校関係者 評価項目

組織運営の状況

管理職・主幹は適正にリーダーシップを発揮して教職員から信頼を得ているか。園務分掌や主幹・チームリーダー等、適正に機能し、組織的運営・責任体制が整備されているか
危機管理やリスク管理、個人情報管理の方針が確立され、関係者に周知され

ているか

寄付行為等 各規程の作成と教職員の労務管理について適正に行われているか。学園が管理する資金収支、財務管理が適正に行われているか
教職員が園の方針や目指す教育内容を把握できているか

指導等の状況

新認定こども園の教育保育指導要領に沿って、年間・月間・週間・日々の指導計画が作成されているか。個別指導計画の作成や各関係機関との連携が保たれているか

園教育の資質向上を計り、講師や専門分野に詳しい人材の取得、研修への参加等教職員の保育の質の向上に努めているか

保健衛生・安全管理等の状況

危機管理マニュアルが作成され 防犯・防災・事故防止対策・遊具の点検・通園時の安全確保など 緊急時に備えて冷静かつ適切に実施できるよう保護者・子ども・地域も含めて訓練を実施し、各関係機関との連携を常に保っているか

日常の健康管理・疾病予防・食中毒・アレルギーなど、徹底した管理の下事故防止に努めているか

日頃のウィルス感染防止に努めると共に、拡散防止のための園内の消毒や園児の感染防止対策は万全であるか

感染が確認された場合の体制は整えられているか

家庭・地域との連携事業等の状況

幅広く園の情報を公開し、理解を得られているか

保護者・地域・各関係機関との交流を深め具体的な要望や意見に適切に対応できているか

知りうる限りの家庭での状況を鑑みて、支援の必要な家庭に手を差し伸べられているか

保護者からの相談内容や情報は秘密厳守できているか

学校関係者評価

- ・ 教育目標・事業内容・取り組み状況・財務状況改善において、総合的に努力されており、良好である
- ・ 地元有志が立ち上げた学校法人でもあり、地域とのつながりを大切に深め 教

育機関としての機能をより一層活かされることが望ましい

- ・ 近年のニーズを注視しながら新しい試みや保護者の立場に寄り添った環境作りが必要と思われる
- ・ 園の教育理念や活動の周知をさらに広め、【幼保連携認定こども園】としての保育教育方針を固めると共に、未就園児・卒園児も広く行事や事業に参画できるように努めてほしい
- ・ 地域に根差した園であることから保育を必要とする家庭に広く門を開け、市町村や地域自治体とも連携しながら子育て支援施設としてのより一層の充実を図り、“見える状態”が望ましい
- ・ 危機管理の更なる徹底
最近の事件の傾向や防犯の知識を高め、警察と連携し教職員対象の防犯訓練などの実施回数を増やす
- ・ 認定こども園として、今現在の保護者のニーズにこたえられているかをもう一度検証すべき。
- ・ 医療機関とは、緊急時以外でも交流を図っているが、連携している医院が休診日など、他機関へのパイプが繋がっているかの確認
- ・ 【新型コロナウイルス感染症】対策時は臨機応変に対応したと評価されるも、園内の消毒の見直しや職員感染時に休園になった際の課題も残る。他の感染症と同じ対応にはなったものの、季節性として警戒されていた“インフルエンザ”等の感染症の脅威が一年を通して聞かれるようになった今、新たに対応についても対策を話し合い進めるべき
- ・ 組織としての機能は理事長・園長・主幹を頂点に機能していると思われるが、連絡・報告・相談が一方通行にならないように、より情報が共有できるように連携を保つ チームワークが成り立っているかの確認を怠らないこと
- ・ 教職員の情報共有と危機管理能力の向上が不可欠であり個々に対策意識を保つ
- ・ それぞれの役割を把握し、メンタルハウス・パワハラ・モラハラ等の防止を園長主幹が中心となって取り組むべき
- ・ 虐待防止の意識から子どもを守る立場として、個人個人の責任を持てているかを考える時代である。
- ・ 組織運営と管理体制が次世代に伝わるようにより良い運営を目指すべき
- ・ 慢性的な人手不足の中で教諭・保育士の確保と育成が最重要課題である
- ・ 教員のキャリアアップを目指し、園内研修を含めて、各機関が企画する研修参加などフィードバックも含めて、新任や中核リーダーの教育に力を注ぐべき
- ・ 養成校との関係をもっと深めるべき